

トビックス

赤外線センサーカメラでとらえる、高山帯の哺乳・鳥類

近年、ニホンジカやイノシシなどの大型草食性哺乳類の高山帯への侵入や高山植生の被害が問題となっています。特に、南アルプスや八ヶ岳ではニホンジカの食害による植生変化が顕著となっているほか、北アルプス山麓でもニホンジカの生息が確認されています。

こうした高山帯を利用する野生動物のモニタリングは、そのアプローチの困難さや夜間に行動する動物も多いことから容易ではありませんでしたが、近年、安価で高性能な赤外線センサーカメラが開発されたことから、高山環境下でも連続的な観測が可能となってきました。

当所でも、県内各地の山岳で、この赤外線センサーカメラを利用した哺乳類相・鳥類相の調査を行っています。中でも、後立山連峰の爺ヶ岳から岩小屋沢岳にかけては、2007年（環境省）、2011・2012年（長野県）、2013年～2016年（当所）と、およそ10年間にわたって赤外線センサーカメラが設置され、高山の哺乳類、鳥類の生息状況をとらえてきました。このカメラの画像から、北アルプス北部の哺乳類相・鳥類相だけでなく、これまでは生息情報がなかったニホンジカやイノシシの高山への侵入状況が明らかになってきました。その一端をご紹介しますと、爺ヶ岳・岩小屋沢岳で最も多く撮影された哺乳類はニホンザルで、他にキツネ、ツキノワグマ等が撮影されました。鳥類では、高山に生息するライチョウが最も多く写っていましたが、意外にも、里山に生息するヤマドリや、フクロウの仲間のコミミズクも撮影されました。

そして、ニホンジカ、イノシシについては、2012年までは両種とも撮影されていなかったのですが、2013年にニホンジカ、2015年にイノシシが撮影され、それぞれ爺ヶ岳・岩小屋沢岳での初確認事例となりました（写真）。これは単発的な進入かとも思われたのですが、ニホンジカ、イノシシとも、その後も毎年（今年も！）連続して撮影されており、両種の北アルプス北部高山帯への進入が徐々に進行している状況にあるのではないかと思います。

爺ヶ岳・岩小屋沢岳では、南アルプスなどでみられるようなニホンジカの採食による高山植生の顕著な変化はまだ観察されていません。しかし、2016年には、同山域でイノシシがお花畑・高山植物を掘り返した痕跡を確認しました。これは、北アルプス北部では初の事例だと考えられます。今後は、引き続き赤外線センサーカメラによって哺乳類・鳥類をとらえるとともに、こうした高山植生への影響も検出・把握していきます。

（尾関 雅章・堀田 昌伸

kanken-shizen@pref.nagano.lg.jp)



写真 爺ヶ岳・岩小屋沢岳で撮影されたニホンジカとイノシシ